

## 第2次宇城市総合計画審議会 第4回会議録

日時：平成29年2月21日（火）13：30～

場所：宇城市役所 3階 大会議室

### 1 開会

### 2 議事

(1) 第2次宇城市総合計画（基本構想・基本計画）（案）の提示

(2) （案）に対する協議

### 3 今後のスケジュールについて

### 4 閉会

#### 【配布資料】

（事前送付資料）

- ・「第2次宇城市総合計画 基本構想・基本計画（案）H29.2.15版」

（当日配布資料）

- ・「震災復興施策の提案書」
- ・第2次宇城市総合計画策定スケジュール
- ・計画策定までの経緯

【次回会議】平成29年3月23日（木） 市役所2階庁議室

## 1 開会

(事務局)

委員欠席…右山委員、平山委員

第2回と第3回は部会に分かれて基本計画(案)について協議いただいた。本日は、前回会議の意見を反映させた草案を提示する。全体での議論をお願いし、一定の取りまとめを行い、3月1日からのパブリックコメントに諮りたい。

## 2 議事

(1) 第2次宇城市総合計画(基本構想・基本計画)(案)について

(事務局)

総合計画は、序論と基本構想、基本計画で構成されている。

「序論」について(6頁)

熊本地震からの復旧・復興の考え方を最優先として位置づける。

期間は、基本構想が29年度からの8年間。

基本計画は、前期計画が29年度から4年間、後期計画が33年度から36年度までの4年。実施計画は毎年見直しを図る。

・第2章 市の概要(7頁～)

位置・地勢と面積、交通アクセス、沿革・歴史は、第1次計画とほぼ変わらないが、交通アクセスでは宇城氷川スマートICの完成を記載している。

人口と世帯数の推移では、平成27年国勢調査の結果を載せているが、人口は減少傾向で推移している。

財政の状況では、合併時の平成17年度と10年後の状況を比較している。

「基本構想」について(13頁～)

・第1章 まちづくりの目指す方向

『ちょうどいい!住みやすさを実感できる都市・宇城』を将来都市像として設定したい。

目標人口について、市の人口ビジョンでは、平成37年の人口を54,750人と推計している。本計画はこの1年前の目標人口であり、55,000人以上を維持した計画としている。

まちづくりの基本目標として、6項目を掲げている。

- 1 「復興する」まちづくり
- 2 「育てる」まちづくり
- 3 「住み続ける」まちづくり

- 4 「持続する」まちづくり
- 5 「選ばれる」まちづくり
- 6 「活躍する」まちづくり

市長が2期目の公約に掲げたプロジェクトであり、1「復興する」まちづくりにおいては、県が復旧・復興プランに掲げた、Ⅰ. 被災された方々の痛みを最小化する Ⅱ. 単に元にあった姿に戻すだけでなく、創造的な復興を目指す Ⅲ. 復旧・復興を熊本の更なる発展につなげる。この3原則に基づき、国や県の支援を受けながら進めていく。

4「持続する」まちづくりに、大野川リバーサイド整備による交通渋滞緩和と宅地化促進を追加したい。

土地利用構想は、市の都市マスタープランに書き込まれている事項を中心に転記した。

#### ・第2章 熊本地震からの復旧・復興方針（19頁）

熊本地震からの復旧・復興については、総合計画に盛り込むことを議会答弁した。

8年の構想の中に、第2章に方針を取り纏めている。

内容は、趣旨、役割と期間、位置付け、推進体制、現状と課題としている。

前期の中では復旧・復興を最も重要な部分とし、後期の4年間を再生・発展期として取り組むことを示している。

推進体制では、復旧・復興業務を庁内各部署が連携して取り組む。被災された方々との意見交換の場は設定する必要があると考えており、「震災復興宇城市民会議（仮称）」で意見交換の場を設け、PDCAサイクルに基づき進める。

#### ・第3章 施策分野別における基本方針（22頁）

1 震災・復興、2 教育文化、3 生活環境、4 健康福祉、5 産業経済、6 都市基盤、7 地域経営、8 地方創生の各分野において目指す方向、重点項目を掲げている。

全体冊子には、このほか、用語集、委員名簿、策定の経緯を掲載する。

#### （会長）

基本構想について、お気づきの点があればご発言いただきたい。

#### （委員）

熊本地震後、豪雨災害があった。がけ崩れや洪水など被害が大きかった。

豪雨災害からの復興も、巻頭の市長あいさつに文言として入れてほしい。

#### （事務局）

豪雨災害の復旧・復興もあいさつ文に入れたい。

#### （委員）

13ページの『ちょうどいい！住みやすさを実感できる都市・宇城』の「ちょうどいい」

の文言に引っ掛かりを持っている。地域の会合で、「ちょうどいい」は発展性を感じないとの意見があった。誰でもがわかるような文言が出来ないか。

18ページの市街化を推進する都市的エリア。(ア)の中で、アメニティとともにアメューズ性を有するとの文言。快適さ・心地よさと娯楽という意味と理解した。

心地よさとともに娯楽性を有するとはどういうことなのか。カジノを想像しているのか、と思った。

(事務局)

将来都市像の「ちょうどいい」について。それぞれの中で生活しやすい空間が出来ればちょうどいいと感じられる。宇城市は住みやすさランキング県内4位。表現は定住化のキャッチコピーで使っている。このままの表現を使わせていただきたい。

アメニティの表現は、都市マスタープランに表記されている。ギャンブル性のイメージが想像されないような表現に言い換えをさせていただきたい。

(会長)

総合計画は市の最上位計画である。その下にある都市マスタープランなど個別分野の計画と整合性が取られなければならない。全面的に言葉を差し替えると整合性が取れなくなる。整合性が取れる範囲で、交わりの部分が出来るとなるような形の表現に変えていくことは可能。

(委員)

14ページ「復興する」まちづくりの【重点プロジェクト】4番目。鑑ヶ鼻ため池の完全修復について、県管理施設のため県が具体的に復旧を進めている。どのような意味合いで市の計画に含まれているのか。

(事務局)

国や県の事業であろうが、市民にとっては被災箇所がどう復旧していくのかが重要。29年度以降も続く事業なので記載している。

(会長)

県直轄と市直轄にわかれているのであれば、市直轄の部分で市全体のインフラが元にもどるような書き方であれば市民に分かりやすい。

(委員)

15ページの持続する街づくりについて

JR小川駅及び松橋駅西側の整備計画・推進。今までは、松橋駅周辺開発という言葉であった。あえて西側と限定しているのは何故か。

(事務局)

松橋駅の連絡通路が出来たが、駅西側はまだ開発されておらず、あえて西側とした。周辺という表記が適していれば変更したい。

(委員)

整備のイメージは、駐車場を含めた広場整備限定なのか、さらに広げた都市の開発を含めた整備なのか。全体の開発であれば、周辺。駅西計画の中での駐車場整備などであれば西側。範囲がどこまでのところで考えているのか。

(事務局)

インフラを整備することで民間が開発するイメージ。8年間の計画なので、広い目での西側としている。西側が不適切であれば周辺に変えたい。

(委員)

8年間の長いスパン。西側に限定せず駅周辺が適切ではないか。

(事務局)

周辺という表記に変える。

(2) 第2次宇城市総合計画（基本構想・基本計画）（案）に対する協議

資料は事務局から事前に配布してある。

各委員から順次発言をいただきたい。

(委員)

48ページ。確かな学力を育成する教育の推進

プロジェクトの基本方針

アクティブ・ラーニングの表記について。新学習指導要領ではアクティブ・ラーニングという言葉は使わない。削除をお願いする。

(2) 社会の変化に対応した教育の推進

プログラミング教育が新学習指導要領で示された。情報モラル教育の表記の前に、プログラミング教育を加筆してほしい。

55ページ。国際理解教育の充実と外国語教育の推進

(2) 外国語（英語）教育の充実

ALTを各中学校に派遣するとあるが、小学校が抜けていると思う。各小中学校に派遣するへ変更をお願いする。

(委員)

熊本地震でウィングや美術館が被災した。復旧を心待ちにしている。

文化祭が今年で10回目。今までと違った文化活動を考えており、協会も情報発信していく。課題は、後継者（若手）が育っていないこと。子供たちに、芸術文化に親しむ環境づくりに努力して行きたい。

(委員)

スポーツ推進委員は校区運動会や各種スポーツ教室などを開催しているが、マンネリ化している行事もある。また、参加者の固定化が問題化されており、底辺拡大に向けた取り組みが必要。地域で取り組む市民の健康づくり体制として、高齢者向けのスポーツ教室など健康づくり推進課との連携も含め活動の場を広げていく必要性を感じている。

(委員)

生活基盤、社会基盤、産業基盤の復興については、被災者へスピード感を持って対応していくことが大事。対応が遅くなると市民が市外に流出する可能性もある。社会基盤について、学校などの公共施設も早く復旧を進めるべき。ロータリークラブでは、

仮設住宅6か所に30基の街灯を設置する。仮設住宅が終わったら指定避難所に移設する。小中学校18校には電子黒板を3月までに贈呈する予定。

産業基盤では、農業後継者、基盤が壊れたところに国や県の予算があれば早く復旧を。中小企業では、商工会等の支援策の活用や相談できる仕組みなどが必要。こうしたことが、社会基盤、生活基盤、産業基盤の復興に繋がる。

(事務局)

復興計画については、数値目標でなく、復興の歩みを示したロードマップで表している。ここで示した施策などにスピード感をもって取り組んでいきたい。

(委員)

震災で小規模事業者が打撃を受け、今後に大きな不安をもっている。グループ補助金受給までのつなぎ資金に困っている。対策として利子補給の制度を創ってもらえないか。また、事業者が地域活性化のためにイベント等している。これについても支援をお願いする。

買い物難民問題では高齢化で近くの店舗が無くなっている。集落に目を向けた施策を考えてほしい。計画では、駅周辺の開発があるが、集落では人口減、高齢化が進んでおり、定住促進の観点から集落にも目を向けてほしい。

(委員)

市内農業者も地震と水害で大きな被害を受けた。今、支援策で復旧復興に向けている。国営基盤事業も動きだすようであり、復旧・復興も含め農家の声をさらに聴いて進めてほしい。基盤整備、農地の集積、耕作放棄地の問題も今後出てくるからこそ総合計画に盛り込まれていると思う。総合計画の冊子が出来あがったら広く配布してほしい。市民がこれを見ることで市政にさらに関心を持ってもらいたい。

(会長)

総合計画は市の最上位計画である。本篇と概要版だけでなく、子どもでもわかるような小・中学生版を作れば、総合計画の知識を供用できる部分もあるのでは。

(委員)

熊本地震からの復旧・復興を最優先課題として位置付けてある。計画を推進するにあたっては評価方法としてPDCAサイクルを活用していくとのことであった。

実施計画に基づいて、災害に強い街づくりや誰もが住みたいまちを目指す中でスピード感をもって推進してほしい。

(委員)

地域づくり団体として、地域を元気にしたいと思っているが人口が都会に流れている。10年後は地域力が落ちていくと思う。どうやって生き残っていくべきか、団体として地域づくりを盛り上げていかなければと思う。地域の伝統(祭など)や文化財を残していかなければと感じており、そのことが、いつか大きな財産になる。

(委員)

140ページにコンパクトシティのまちづくりが記載されている。三角駅前エリアにいろいろな機能を集めて、過疎化を止めようと以前から話が出ていた。そのような視点があり、ありがたい。三角観光のマーケティング委員会でアンケート調査をはじめた。西港な

どへの入込客は年間50万人程度ということだが、どの様な人がきているのか。また、消費額がいくらあるのか。そのような事を勉強している。

(委員)

豊野町の施設一体型小中一貫教育。スタート時の小学6年生が今、中学3年生。4年間ですごく成長しているのを実感した。地域で子供たちの成長を見守る学校にしたい。計画にも書かれているが、さらに一貫教育を伸ばして欲しい。

195ページ、男女共同参画の指標、審議会などの女性の登用率の目標値30%。ワークショップの中で意見があったが、現状の26.2%を30%に上げることは大変なこと。何年かかっても30%に達しない。目標値として定めたい。

(委員)

82ページの高齢者福祉部門。高齢者が住み慣れた地域で安心して生活するため、地域で支え合う仕組みを整えるとともに生きがいをもって活躍できる環境をつくることが重要と記してある。まさにこの通り。地域でも老夫婦とか一人暮らしの方がいる。車を運転できるときはよいが運転をやめたときから閉じこもる方がいる。地域で支えあって、認知にならないように、小さい単位で集まって話し合える場が作られれば良い。高齢者が多くなる今から認知症予防を考えていかねばならない。

(委員)

今、この計画が出来ていて、29年度の予算が議会で審議されている。計画が後追いであるのか、疑問がある。計画が先で、それを基に予算が審議されて思い描いた宇城市が出来ていくのではないか。

福祉関係はカタカナ用語が多い。説明書きが付くと思うが、難しい言葉でなくより多くの市民の皆さんに計画を理解して参加してもらうため、わかりやすい表現は大事。できれば見直しをしてもらいたい。88ページの国民健康保険事業の推進。冒頭の2行には厚生省の文章を当てはめたところがある。94ページの地域に根差した病院事業の充実。プロジェクトの基本計画の(3)「市民病院新改革プランの実行」が削除されている。前回と基本方針が大きく変わっているのが冊子になるのはおかしい。もう一度議論するべきと思う。

(会長)

部門に分けて審議したので、そこに参加いただいた方には意思統一を図っていただきたい。

(委員)

この計画は宇城市の最上位のプランとなる。市議会議員にも必ず認識してもらいたい。そうでないと予算付けも難しい。

骨子の部分、「ちょうどいい都市」を実現するためのものであることを共通認識して、委員、市職員、携わる団体全ての方が認識する働き掛けをこの1年でしなければならない。プランは人口目標が主体としてある。仮に前期の途中年度から極端に人口が減るような事態になったら緊急的に集まってプランの見直しをする意識が必要と思う。まちづ

くりの意識、人が住む意識で考えると、10代の声をプランの中にもうまく生かす方法を考える時期と思う。

(委員)

宇城市が誕生し環境立市宣言をした。これまでフォーラム等々実施しながら環境の啓発をされたと思う。平成19年度からはコンテナ分別収集を全町に広げ取り組んだことでリサイクル率も良くなった。ごみ問題では、家庭の生ごみが60%を占める。生ごみの半分は水であり、水を燃やすためエネルギーを要し、地球温暖化の原因と言われるCO2も多く発生する。今こそ生ごみを減らす、リサイクル率を上げる啓発が必要と思う。このプランをどう具現化するのが大事。啓発するための予算化を考えてほしい。

(会長)

環境問題いろいろな視点がある。できればマスタープランのなかに、市も自治体版エコアクション21の取組みを別枠で作って頂きたい。

(委員)

地震で自主防災組織の機能が生かされなかったと聞く。今後、自主防災組織を市のどの管轄で統一していくのか、指示を出していくのか。また出さなかった場合は、消防団に委託して各地域の自主防災組織と連携するような指示を出していくのか方向性を聞きたい。

96ページの広域消防の適正化と防災・消防体制の強化。表中に地域資源を有効に活用し、これまで以上に柔軟かつ・・・と、消防機関以外の外部資源の活用可能性・・・とあるが、何の資源なのか。自衛隊なのか、他の消防署の力なのか、県外の消防力なのか。

国営基盤整備事業は3年間で集積しながら進んでいくと思うが、豊川地区の利水の問題をどう解決していくのか。

市の待機児童はゼロと聞いている。しかし、松橋地域の中心部、また豊川地区では自分の地域に入れたい問題がある。中心部に民営でも保育園を置く計画はあるのか。発案だが、豊川小学校は空き教室がある。豊野の小中一貫教育ではないが、幼・小一貫計画が出来れば、豊川の活性化や不便な母親の解消に繋がるのではと思う。

(委員)

仮設住宅の一番の不安は原則2年の入居期間。記載を見ると不安をお持ちの方に寄り添っているのか。26ページから27ページの恒久的な住まいの確保を見ると、災害公営住宅が出来るまでに2年切ってしまうように見える。34ページから35ページの地域支え合いセンターの現状と課題。期間過ぎても難しい方の対応も検討するとは書いてあるが。後の計画には特段対応に触れる部分もない。

復興基金事業を県で予算化している。市でも一部予算化して、これから6月補正に向けて追加されていく部分もあるかと思うが、今の計画の中で取り組もうとしているのがあれば計画案に盛り込んでいただけないか。

### 3 今後のスケジュールについて

(事務局)



- ・ 3月1日から14日までパブリックコメントを実施し市民の意見を募る。  
パブリックコメントについては、3月1日広報うきで周知する。
  - ・ 市議会には3月22日に報告する。
  - ・ 審議会、次回は3月23日開催する。最終案の提示を行い、その日に市長に答申する。
  - ・ 総合計画策定本部会議は3月24日開催。市長に答申した内容について意見をいただき、成案を作成し公表する。
- 
- ・ 会長から意見があった概要版は作ることも考えている。また、小中学生用の概要版も検討したい。
- 
- ・ 最終的な修正は3月16日まで。17日次回会議の資料を委員に発送する。

(質問)

パブリックコメントの結果で修正した場合の確認はできるのか。

(事務局)

新旧対照表を作成する。

#### 4 閉会